

日本福祉大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)

持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

## COC ニュースレター



ふくし・マイスター

## 地域連携ポリシーの策定



千頭地域連携推進機構長

## 地域連携ポリシー〔全学〕

COC事業を通して、本学の地域連携の取組を質・量ともに拡大・向上させてきたこれまでの到達点を踏まえるとともに、今後の取組継続と更なる発展を期すため、2018年度に「日本福祉大学地域連携ポリシー〔全学〕」を策定しました。

## 地域連携ポリシー〔学部〕

COC事業は、知多半島の連携4市町といった独自の枠組のもとに推進してきましたが、今後は、これまでの枠組を大切にしながらも、対象地域や事業内容など、新たな展開が可能となります。そこで、2019年度新たに、「日本福祉大学地域連携ポリシー〔全学〕」を基に、各学部の特色を生かした「日本福祉大学地域連携ポリシー〔学部〕」を策定し、地域連携の方針を明確にしました。「日本福祉大学地域連携ポリシー〔学部〕」に基づいて行われる事業をPDCAサイクルにより目標管理することで、今後ますます地域連携の取組の質を向上させていきます。

※策定した地域連携ポリシーは、2020年4月に本学HPへ掲載予定です。

## 国連アカデミック・インパクト (UNAI) に加盟

2019年度に国連アカデミック・インパクト (UNAI) に加盟の申請を行い、国連からの承諾を得ました。今後、国連アカデミック・インパクトJapanのHP内にSDGs(※)に関連した本学の取組を掲載していきます。

## トピック

国立研究開発法人科学技術振興機構 社会技術研究センター (RISTEX) が募集する2019年度戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発) SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (シナリオ創出フェーズ) において、看護学部の長江美代子教授の提案「性暴力撲滅に向けた早期介入とPTSD予防のための人材育成と社会システムづくり」が採択されました。

※SDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

## ふくしとは?

“ふつうのくらしのしあわせ”を意味します。

従来の制度中心の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を平仮名で「ふくし」と表現しています。

## 地域での学びをふくしAWARDで発表

本学では、地域志向学習や、国際交流、ICTの活用を通して得られた学びを表現するプレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD」を開催しています。2020年1月28日に行われた第5回ふくしAWARDでは、43件の応募の中から、「私たちの考える障害とは」をテーマに、特別支援学校へのフィールド調査や実際に会社で働く障害のある方へのインタビュー調査を経て考えたことを発表した社会福祉学部1年の水野由樹さんのグループが日本語部門で大賞を受賞しました。英語部門を含めた全作品の中から選ばれる学長特別賞もあわせて受賞しました。



## COCデイ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

日本福祉大学は、学部と全学教育センターによる地域連携教育を推進し、持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成に取り組んでいます。「COCデイ」は、地域志向科目「知多半島のふくし」の公開授業として、本学がめざす「ふくし社会」のあり方を地域社会と共有し、地域で課題解決に取り組む方を講師に迎え、地域の現状や課題に対する理解を深めます。2019年度は、社会福祉学部とともに東海市の事例を通して「認知症の人と家族～認知症の人と家族に優しい地域に向けて～」をテーマにシンポジウム開催しました。

### 基調講話 「認知症の人と家族」

公益社団法人 認知症の人と家族の会愛知県支部  
特定非営利活動法人 HEART TO HEART 尾之内 直美さん

### ■シンポジウム 「認知症の人と家族に優しい地域に向けて」

<シンポジスト>

東海市市民福祉部 後藤 文枝さん [地（知）のマイスター]  
オレンジフェスティバル実行委員会 伊藤 諭さん [地（知）のマイスター]  
日本福祉大学 社会福祉学部 2年 松原 哲央さん  
日本福祉大学 社会福祉学部 2年 柴田 竜成さん

<コメンテーター>

公益社団法人 認知症の人と家族の会愛知県支部  
特定非営利活動法人 HEART TO HEART 尾之内 直美さん

<コーディネーター>

日本福祉大学 社会福祉学部 齊藤 雅茂 准教授



基調講話では、公益社団法人認知症の人と家族の会愛知県支部（以下、家族会）で30年以上活動を続けている尾之内直美さんより、家族会の活動事例を通して、認知症の人と家族の支援や課題について話題提供をいただきました。

シンポジウムでは、シンポジストの東海市市民福祉部の後藤文枝さんより、東海市における認知症ケアラースカフェの取組や地域包括ケアの取組が紹介されました。次に、オレンジフェスティバル実行委員会の伊藤諭さんより、オレンジフェスティバル実行委員会の事例をもとに、一人ひとりが認知症についての理解を深めていくことの重要性についてお話いただきました。

## 地域で働く「ふくし・マイスター」

日本福祉大学では、平成26（2014）年文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の採択を受け、知多半島の関係自治体や課題解決に取り組む地域関係者とともに、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んできました。2019年3月16日、学位記授与式にて648名の卒業生に「ふくし・マイスター」の修了証がはじめて授与されました。卒業後、それぞれの地域に関わりもち、様々な地域課題に取り組みながら、ふくし社会を担う人材として活躍する「ふくし・マイスター」1期生の取組を紹介します ※今年度は591名（2019年9月の前期卒業生を含む）に授与



### 中津川市社会福祉協議会 原 奏恵さん

生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーターとして地域に出向き、生活の中のちょっとした困りごとを、その方が暮らす地域の中で解決できるように支える仕事をしています。地域の方を信頼し、地域の方と一緒に取り組んでいくことが必要だと仕事をする中で考えるようになりました。

卒業後、日本福祉大学で学び得た「挑戦することの大切さ」が今につながっていると実感しています。今後は、中津川市をより良い地域にしていけるよう、地域の住民と助け合いながら取り組んでいきます。

（社会福祉学部 社会福祉学科 2019年3月卒業）

### 半田市社会福祉協議会 鈴木 花菜さん

地域における福祉コミュニティづくりのために、ボランティア地域ささえあいセンターの一員として市内のボランティア団体や高齢者の方々などの活動の場を協働で作ってあげていく仕事をしています。

仕事を通じて、地域の人に信頼されるかが本当に大事であると感じます。学生の皆さんには、興味を持ったことはどんなことでも積極的にチャレンジすることが大切だと伝えたいです。そういった経験が社会のあらゆる場面で生きてくるはずですよ。

（健康科学部 福祉工学科 健康情報専修 2019年3月卒業）





## 地（知）のマスター・地（知）のフィールドの活躍

地域において優れた教育的・研究的な知見・知識・経験を有した人や団体を地（知）のマスターと地（知）のフィールドとして登録（認定）し、本学の地域連携教育や地域を志向する研究において活躍していただく制度です。本学の正課授業等へのゲスト講師としての登壇や、地域連携教育・地域志向の研究でのフィールド先として協力いただくことで、知多半島における人材育成に支援をいただきます。

### 本学生涯学習講座に講師として登壇

知多半島の歴史と観光講座の第1弾『半田運河を歩く』の講師として、10月9日に地（知）のマスターである半田市職員の赤坂雪江さんに登壇いただきました。2年前に本学の市民研究員として研究されたテーマをもとに「今を歩いて、昔をたのしむ」～『古今半田衆』巻第一半田停留所前～と題して講義いただき、受講生からは「身近な地域を漠然と歩くのではなく、こんな視点で歩くともっと興味がわくことを知ることができた」との感想が寄せられるなど、好評を博しました。



赤坂雪江さん



## 「地域連携型研究助成制度」を新設しました

Research

2018年度までのCOC事業で展開した「地域課題解決型研究支援制度」「市民研究員制度」の趣旨と成果を発展・継承する「地域連携型研究支援制度」を2019年度に新設しました。

### 「共感でつながるアサーション」による 子育て支援専門職の連携機能の開発

福祉経営学部（通信教育部）の水野節子助教は共感的に相手を受容するアサーション（自己表現）のあり方を子ども用の「感情のカード」「ニーズのカード」を用いて、美浜町の子育て支援専門職・子育てネットワークカーと連携して研究を進めてきました。



### 研究テーマ

- 子どもを中心とした地域ふくし拠点づくりに関する研究 ～美浜町における子どもの夜の居場所支援の実践を通して～
- 「共感でつながるアサーション」による子育て支援専門職の連携機能の開発
- 知多半島に在住する外国人住民の現状と地域共生に向けての課題の可視化
- 団地内拠点活用によるコミュニティエンバウメントのプロセス研究 ～知多市朝倉団地周辺地区を対象として～

## 自治体との協働

Collaboration

### 南知多町・武豊町・岩倉市との連携協定の締結について

2019年2月12日に南知多町、同7月17日に武豊町、同12月25日に岩倉市と連携協定を締結しました。密接な連携・協力により、地域の課題に適切に対応し、活力ある豊かな地域社会の形成および相互の発展と充実に寄与することを目的としています。

今後、それぞれの地域が魅力あるまちとして全国から注目されるように、協定に基づいた連携をさらに進めていきます。



南知多町



武豊町



岩倉市

## 美浜町 空き家を活かした多世代交流の居場所づくり

地域課題解決型サークルCYCLEは、社会福祉学部人間福祉専修の6名の学生が、1年次のゼミ活動を通じて気づいた「地域コミュニティの希薄化」の課題を解決しようと2018年度に結成されたサークルです。頭文字には、「地域=Community」「若者=Youth」「つながり=Connect」「長生き=Long life」「高齢者=Elderly」の意味を込めて、多世代間のつながりを創出することを目的に現在まで継続的に活動しています。

2019年度には、美浜町「まちづくりエンジョイびらん交付金」の採択を受けて活動を発展させ、中学校に近い立地を活かした学習支援の活動や、季節の催事を定期的で開催するなど、空き家だった場所を多世代交流の拠点として再生させ、今では小学生から高齢者が集う居場所を創りだしています。



## 半田市 元料亭の縁台を地域のひとと一緒に制作しました



健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修の学生5名が、前期期間中に行った授業をきっかけにJR半田駅にある元料亭の春扇楼末廣の縁台づくりプロジェクトを立ち上げました。地域のひとと一緒にプロジェクトを推進していきたいという思いから、

学生達が制作した複数のデザイン案を地域の方々にレビューしていただき、1案に絞りました。絞り込まれたデザインを形にするために、誰でも参加できる縁台づくりワークショップを企画した学生達は、木材の調達や加工などの準備を進めていき、11月に実施されたワークショップでは地域の方々8名と共に4基の縁台を完成させることができました。ここで作られた縁台は、今後、春扇楼末廣で実施されるイベント等で利用していく他、近隣のイベントでも活用できたらと考えているようです。



## 東海市 第5回東海市地域大円卓会議を開催

東海市地域大円卓会議は、多世代が協働して、学び、考え、実行する「学思行」を体現する市民参加の場です。2019年11月19日に東海市芸術劇場で、第5回東海市地域大円卓会議が開催され、本学学生や教職員を始め、星城大学、行政関係者、一般参加者など約80名が参加しました。今回は東海市制50周年を記念し、「東の町エイサー」によるエイサー発表も行われました。

第1部では高校生から一般まで5名のプレゼンターが登場しました。本学からは経済学部角谷達則さんがスピーチをしました。第2部ではプレゼンターの夢を実現するためにワークショップを実施しました。続いて、共有タイムとして、出された意見をグループ毎に発表し、「多世代が協働した学びの場」を創出する機会となりました。



## 知多市 朝倉団地センタープレイスでの取組



2018年10月23日に知多市及び日本福祉大学は、独立行政法人都市再生機構と朝倉団地とその周辺地域に少子高齢化や外国籍世帯の増加等の地域課題に対応する取組を協働して実施することにより、

地域の活性化や良好なコミュニティの形成等に資することを目的として、連携協定を締結しました。その後、朝倉団地内の空き店舗を活用した取組を住民とともに重ねてきました。店舗内の改装作業や運営等にも本学が協力し、学生の居住を進めるなど、交流を深めてきました。

2019年5月26日に「朝倉団地センタープレイス」のオープニングイベントが開催され、地域の接点を増やす多世代・多文化交流の拠点として、地域の様々な団体・個人が関わり、にぎわいが生み出されています。



日本福祉大学 地域連携事業推進本部  
 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6  
 TEL 0569-87-2972 FAX 0569-87-2614 (企画政策課)  
<http://www.n-fukushi.ac.jp/coc>

